

中学部 「リズム作り（音楽科）」 学習指導案

1. 日時 令和4年12月

2. 場所 音楽室

3. 学部・学年・組 中学部 第2学年

4. 単元（題材）名 「オリジナルリズムで和太鼓を演奏しよう（創作）」

5. 単元（題材）目標

- ・ 音符や休符が組み合わさりリズムが構成されていることに気づくとともに音符等の特徴を知る。
(知識及び技能)
- ・ 楽曲の構成を知り、感じたことやリズムについて自分なりの表現で伝えようとしている。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 友だちと協働する中で自分の意見を伝えながら、粘り強く創作活動や演奏に取り組んでいる。
(学びに向かう力、人間性等)

6. 生徒観 略

7. 教材観

本単元は、特別支援学校中学部学習指導要領 音楽（2）内容、A 表現 1，2段階 「ウ 音楽づくりの活動」に関わるものである。

中学部2学年前期課程で学んだ音符や休符の形と名称を基に、後期課程では、その音符や休符の特徴や音楽構成における役割を知り、実際に創作することで理解を深めたい。楽譜の構成を細分化していくと、音符や休符が一つずつ組み合わさってできていることから、生徒の興味関心及び操作性の単純さを利点とする「プログラミング」にヒントを得、本単元の「創作音楽」に、音符や休符を、ブロックを並べるように組み合わせてリズムを構成する創作活動に取り組む。四分音符や四部休符等、リズムが複雑化しないよう、用いる記号を限定することで、難しさを感じることへの軽減を図る。楽曲は、生徒がこれまでにさまざまな授業場面で触れたことのある「パプリカ（作詞作曲：米津玄師 歌：Foorin）」を選曲した。4分4拍子・テンポ101という軽快な楽曲であると共に、これまでの経験において親しみがあるため、曲の展開がわかりやすいことから適していると考えた。また、創作活動で学んだ音楽の構成は、それを理解することで、他の楽曲等でもその成り立ちに興味や関心を持ち、音楽を楽しむ気持ちの醸成につながり、今後の余暇活動がさらに充実したより良いものになっていくことに期待したい。

演奏楽器には、どの発達段階の生徒にも演奏が可能であり、かつ、大きな動作でリズムの変化がわかりやすい和太鼓を選定した。面を叩くという単純な動作でも、手に伝わってくる振動や音によって、大きな楽器に触れているという緊張感やワクワク感につながり、生徒が興味関心を持つきっかけになることが期待できると考えた。さまざまなリズムパターンを動作も用いて体感し、身体で音楽を感じる経験にもつなげたい。

8. 指導観

音楽の授業では、歌唱・器楽・身体表現・鑑賞等、さまざまな活動があり、特別支援学校中学部学習指導要領 音楽 1 目標 においても「…生徒の音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を…育成することを目指す。」と示されている。これまで学んできた領域の理解を深め、社会生活につながる豊かな音楽表現の一つとして、創作：「リズム作り」に着目した。創作活動では、基礎的な知識として「音符や休符の特徴を知る」ことが必要なことの一つになる。その基礎的な知識は、普段視聴する音楽には見えてこない部分が多く、生徒にとってなじみの無いものであるが、後期課程後半で予定している器楽奏をする際に、より音楽構成を理解した取り組みにつなげるため、その基礎的な知識を含めた音楽構成を学ぶ機会を設定した。リズムを

創作するまでにリズムの構成について学習を重ね、音楽カード・タブレットやプロジェクターを用いて、わかりやすく、かつ操作を簡易にすることで、「できるかも」「やってみたい」と、誰もが参加しやすい取り組みにつなげたい。リズム創作時のグループ編成は、グループ学習（国語数学等）の学習編成を参考に班分けし、考えや意見交換がしやすい設定をした。また、選定楽器（和太鼓）は、進級後も学習する可能性があるため、現段階では基本となる所作を知り、以後の学習の基礎作りになるよう意識した取り組みとしたい。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 音符と休符の特徴を知ろうとしている。 ② 音符と休符が組み合わさりリズムが構成されることを理解している。 ③ 和太鼓でリズムを表現している。 ④ 和太鼓でリズムの構成を理解して演奏している。	① 単純・複雑なリズムパターンを聴き、その違いを言葉や表現で伝えようとしている。 ② 楽曲を聴いてイメージしたことを自分の言葉や表現で伝えようとしている。 ③ 楽曲から音の強弱や緩急を感じ、リズム作りのイメージを持とうとしている。 ④ 楽曲の音や雰囲気を感じながらリズムを考え又は表現しようとしている。	① リズム演奏に興味をもって取り組もうとしている。 ② 楽曲に合わせたリズム作りに粘り強く取り組もうとしている。 ③ 友だちの意見をふまえて考えながら、協働してリズム作りをしようとしている。 ④ これまでの取り組みを振り返りながら、自分の演奏を工夫しようとしている。

10. 単元の指導と評価の計画（全8時間、本時は第3時）

次	時	学習内容・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1 ～ 3時	1 「音符や休符の特徴を知ろう」	・ 音符や休符の長さを、絵を用いて示し、実際に演奏することで長さの感覚への理解を促す。 ・ 1 拍の音符休符や音符の組み合わせを知り、さまざまなリズムパターンを体験する。	A①② B① (観察)
2	4 ～ 6時	2 「楽曲の構成を感じよう」	・ 楽曲を聴き、雰囲気や曲の構成について考えさせる。 ・ ダイナミクスをつけながら演奏する奏法を伝える。 ・ 繰り返し演奏することで、リズムパターンや構成によって難易度が違うことを知る。	A③ B②③ C① (観察)
3	7時	3 「オリジナルリズム作りをしよう」	・ 歌詞や音を意識しながら、リズムパターンを考える。 ・ 友だちと協議しながら、楽曲に合ったリズムパターンを創作する。	B④ C②③ (観察)

4	8 ～ 9時 (本時)	4「オリジナルリズムで演奏しよう」	・口唱歌を見聞きしながらオリジナルリズムを演奏する。 ・楽曲の構成を再確認し、ダイナミクスを感じながら演奏する。 ・これまでの学びを振り返り、工夫して演奏する。	A④ B④ C④ (観察)
---	----------------------	-------------------	--	----------------------------

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・さまざまなリズムパターンを意識しながら演奏することができる。
- ・楽曲の構成から雰囲気の違いを感じるとともに、楽曲全体の流れをイメージしながら自分なりの表現ができる。

(2) 本時の評価規準

- ・リズムパターンの違いを意識して演奏しようとしている (A④)
- ・楽曲の雰囲気を感じながら、自分なりに表現を工夫して演奏しようとしている。(C④)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・音符、休符カード
- ・iPad(Keynote スライド)、ライトニング変換ケーブル
- ・和太鼓、撥

(4) 児童生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
5分 導入	・あいさつ、出欠確認 ・始まりの歌	・日直によるあいさつを促す。 ・始まりの歌で音楽の授業の始まりを意識させる。 ・歌中の返事は各クラスごとに、できるだけ元気に声が出せるよう言葉をかける。	
10分 展開 ①	・発声 カウントダウンロング トーン ・歌唱 「僕らの奇跡」	・カウントダウンの表示を見て、ゼロになるまで発声し続ける。難しい場合は、息を長く保つためにできる工夫を考えるよう促す。 ・声の大きさではなく、息の長さに注目させる。 ・全体の流れと、前時までの学びを振り返り、曲に抑揚をつけながら歌うよう促す。 (①歌いだし②ブレス③クレッシェンド④サビ) ・仕上げの感覚が持てるよう、言葉かけをおこなう。	

30分 展開 ②	・楽器「和太鼓」前時までの確認 和太鼓演奏	・前時の振り返りとともに、楽曲の構成を再確認する。 ・1曲を通して、原曲と雰囲気リンクさせるため、どのように工夫すれば抑揚が表現できるかを考える場面を設定する。 ・考えた内容を和太鼓演奏で実演できるよう、意識できる言葉かけをおこなう。 ・通して演奏する。 ・他の友だちの演奏を聴き、自分の学びにつなげる意識を持つよう、言葉をかける。	C④（観察） A④（観察）
5分 まとめ	・片付け ・振り返り ・次回の予告 ・あいさつ	・協力して片づける。 ・本時の目標の確認するとともに、学習内容の振り返りと達成状況を意識させる。	

（６）教室配置等（和太鼓演奏時）

